

## 南 瀨 天 地

「驚いたのは集落の方々が清掃作業にとっても積極的なこと。都会では協力する人はわずか。私が住む地域も住民が協力して行う作業は一つもない」▼「朝、みんなで『おはよう』とあいさつをして作業する文化。すてきななと思った」。「島キャン通信」に大学生たちが加計呂麻島の体験を載せている▼島キャンは島をCampus（学ぶ場）に、島でCamp（仮住まい）し、共に島のCan（可能性）を見いだそうと全国から学生たちが奄美の島々に2週間滞在。島の魅力や体験をSNSで発信する取り組み▼今年4月発足した「あしたの加計呂麻島プロジェクト」に参加したり、毎月8、24日に飲み会を開く俵集落の「棧橋会」に加わったり、台風への備えと通過後の後片付けを手伝ったり。牛の世話、追い込み漁、ハブ捕り、空き家の解体、地ビール誕生感謝祭、ゴミブリ退治……。さまざまな場に身をそよがせた▼読んでみると、過疎の島とは思えないほどさまざまな出来事がある。学生たちの感想の中で最も多いのは「人の温かさ」と「積極的な共同作業」、そして「飲み会文化」。過疎という現象を補って余りある住民の身の置き方が若者たちを引きつけている。「通信」を読みながら島キャンを手掛け、支えるスタッフの労に密かにエールを送った。